

Q & A：博士後期課程入学試験について

1 英語スコアについて

1.1 Q: 英語のスコアは必ず提出しなければならないのですか？

A: 博士後期課程の入学試験において、英語能力試験のスコアは必ず提出しなければならない書類ではありません。しかし、英語で博士論文を執筆する場合、英語能力試験のスコアを提出するよう強くお願いいたします。

2 推薦書について

2.1 Q: 推薦書について、宛名はどちらにすべきでしょうか。

A: 推薦書の提出は任意です。推薦書がなくても出願できます。推薦書は、「名古屋大学大学院国際開発研究科」宛として下さい。郵送先は、募集要項の最後のページを参照ください。

2.2 Q: 推薦書に書式指定はありますか。

A: 書式の指定はありません。ただ、推薦者が所属する大学等の機関のレターヘッド付き用紙が望ましいです。

2.3 Q: 推薦書を書くのは現在のゼミでの担当指導教員でよいのですか。それとも学部長や学部の上長でなくてはいけないですか。

A: 推薦書の執筆を誰に依頼するかについては、被推薦者（出願者）の判断にお任せします。学部長や研究科長である必要はありません。むしろ、出願者のことをよく知っている方、特に指導教員に依頼する方が望ましいでしょう。

3 研究計画書について

3.1 Q: 研究計画書 4000 字には参考文献の文字数は含まないという認識でよろしいでしょうか。

A: 参考文献や脚注/文末注、図表などは文字数に含めません。ただし、研究題目及び副題は含めます。

3.2 Q: 制限字数をオーバーしても良いのでしょうか。

A: 所定の字数を超えた場合、超過字数に応じて減点されます。

3.3 Q: 提出する研究計画は、最終のもので、変更できないのでしょうか。それとも、研究の過程で変更することは可能でしょうか。

A: 出願時に提出した研究計画書は予定で結構です。入学後、大幅に変更するこ

とは避けていただきたいですが、指導教員と相談のうえ、変更することは可能です。

4 指導教員について

4.1 Q: 出願する前に、指導教員となっただけの教授を見つけ、研究計画に関して相談した方が良いでしょうか。

A: 博士後期課程に出願する場合には、指導教員となる教員を GSID 教員リストから見つけ出し、事前の同意を得ておくことを強く勧めます。リストは、<https://www4.gsid.nagoya-u.ac.jp/general/members> (日本語)、または <https://www4.gsid.nagoya-u.ac.jp/en/general/members> (英語) から入手可能です。教員のメールアドレスも入手できます。

5 その他提出書類について

5.1 Q: 出身大学の証明書類が、電子版でしか発行されず、紙媒体がありません。

A: その場合は、電子メールにより出身大学の担当者から直接提出しても構いません。また、紙媒体による証明書類の提出は不要です。

6 面接について

6.1 Q: 面接の言語について教えてください。

A: 日本語又は英語で行われます。日本語で研究計画を提出した者に対しては日本語で、英語で提出した者に対しては英語で行われます。

6.2 Q: 面接の際に日本語を選んだことで英語選択者よりも面接での印象が悪くなるといったことはありますか。その逆はありますか。

A: 面接の際の言語によって差別することはありません。